

## 今日のトピック 最近の指標から見る日本経済(2014年9月) 増税後の回復が足踏み、雇用改善の波及効果に期待

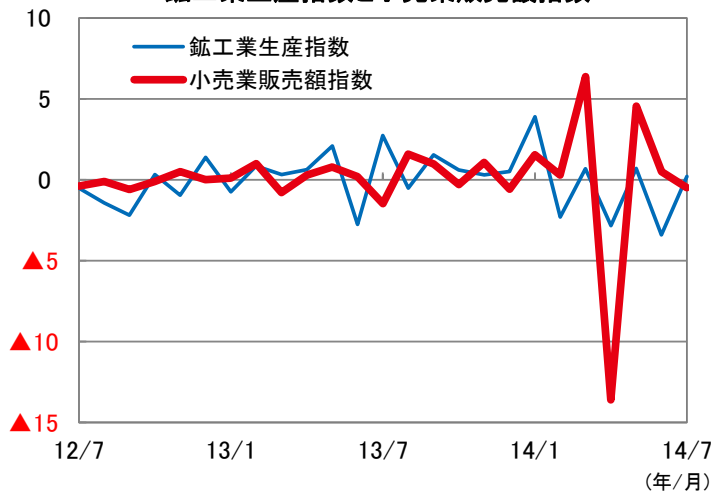
### ポイント1

#### 鉱工業生産指数は2カ月ぶりにプラス

##### 増税後の消費にやや足踏み感

- 7月の鉱工業生産指数(季節調整値)は前月比+0.2%と2カ月ぶりにプラスとなりましたが、前月に公表された7月の予測指数(同+2.5%)を下回りました。機械類などの「生産財」はプラスとなりましたが、乗用車などの「耐久消費財」がマイナスとなり、消費税増税の影響が一部に残りました。
- 7月の小売業販売額指数(季節調整値)は前月比▲0.5%と3カ月ぶりにマイナスとなりました。消費税増税の影響は和らぎつつあるものの、回復に足踏み感が見られます。

(前月比、%) 鉱工業生産指数と小売業販売額指数



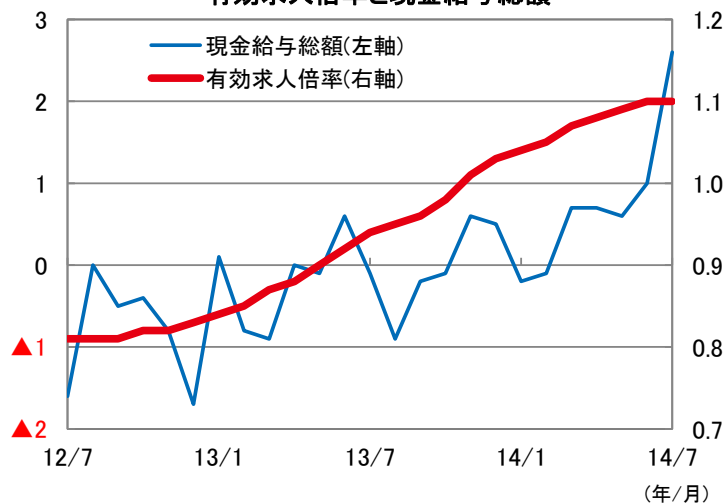
### ポイント2

#### 有効求人倍率は高水準を維持

##### 現金給与総額は11年ぶりの増加率

- 7月の有効求人倍率(季節調整値)は1.10倍と前月比横ばいながら高水準を維持しました。これは1992年6月以来22年ぶりの水準です。産業別では、製造業や卸売業、小売業などで新規求人が増加しており、雇用状況は引き続き逼迫していると見られます。
- 7月の現金給与総額(季節調整前)は前年同月比+2.6%と5カ月連続で増加しました。2003年6月以来約11年ぶりに2%超の増加率となりました。ボーナスの増加に加え、基本給や時間外手当なども増加しました。

(前年同月比、%) 有効求人倍率と現金給与総額



(注) データは上下グラフともに2012年7月～2014年7月。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

### 今後の展開

#### 今後は雇用改善による波及効果に期待

- 現金給与総額は増加したものの、物価の影響を除いた実質賃金はマイナスとなりました。雇用状況が逼迫していることや企業業績が改善しているなどから、今後の賃金上昇に期待したいところです。

- 政府は7-9月期の景気状況を見定めて、12月頃に消費税率の再度引き上げを判断する方針です。持続的な成長軌道に乗せるためにも、アベノミクスの着実な実行が求められます。

### ここもチェック!

- 2014年09月09日【キーワード No.1,410】景気ウォッチャー調査(日本)
- 2014年09月05日【キーワード No.1,408】第2次安倍改造内閣(日本)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。